原稿作成について

1. 原稿の文字数は下記を参考にご執筆ください。

※見出し、和文要旨（100～300字）、本文、図表（約500字換算／1図）、図表キャプション、謝辞、文献、著者紹介（140字）を含みます。

※英文要旨は上記原稿量に含まれません。

※図表は、1つにつき500字程度を使用します。図表のスペースをご配慮のうえ、原稿量を算出してください。

総合報告 24,000字以内 ※図表数に合わせて要調整

解説 14,000字以内 ※図表数に合わせて要調整

最近の展望 19,000字以内 ※図表数に合わせて要調整

研究紹介 19,000字以内 ※図表数に合わせて要調整

基礎講座 19,000字以内 ※図表数に合わせて要調整

1. 掲載する図表のキャプションは本原稿の最終ページにまとめて入れてください。

図はPDFファイルを提出してください。

1. 「総合報告」「解説」「最近の展望」は単名執筆でお願いしております。

「研究紹介」は、4名まで執筆者になることができます。

1. 執筆者の顔写真とプロフィール文もご用意ください。プロフィール文は140字以内でお願いします。

**コンテンツ名：**

**タイトルはここに入れてください．表題は解説記事などの内容を具体的に示していること**

**執筆者の氏名**

**所属先**

**所属先住所　〒　-**

**電話番号：**

**e-mail: 【代表者のアドレス】**

和文要旨（100～300字でお書きください）

要旨は和文と英文を必要とする．和文要旨の長さは，原稿の長さに応じて100～300字程度とする．英文要旨の長さは，120ワード以内とする．なお，要旨の上には，表題と氏名を英文でタイプする．論文のねらい，執筆者の視点，研究方法など，解説記事などの特色がわかるように，本文の内容を要約する．専門外の読者に対しても，本文を読む意欲をそそるよう配慮することが望ましい．

**タイトル【英文】**

**執筆者の氏名【英文】Taro SHIPPITSU\* and Jiro SHIPPITSU\*\***

**所属先【英文】**

**所属先住所【英文】**

英文要旨（120ワード以内でお書きください）

Abstract concisely states the objectives and scope of research, and summarizes the results and principal conclusion gained in your research work. A well-written abstract, together with the title, enables potential readers to determine whether your paper is interesting and worth reading in full. Abstracts must be concise, generally presented as one paragraph, and the length should not exceed 120 words. It should not contain display equations. It is not part of the text and should be complete in itself: no tables, figures, or references should be cited. It must be a single paragraph.

本文

1. **まえがき【第１章は「まえがき」に統一】**

読者の理解を容易にするため，文章はよく整理し，無駄のないようにする．専門外の読者にも容易に問題の所在が理解できるように，「まえがき」（序論）と「むすび」（結語）は特にわかりやすく書く．特に「まえがき」の書き出し部分は，専門外の読者にとってもやさしく，魅力的になるように配慮し，無理なく読み進むことができるように工夫する．アルファベットによる略称などは，たとえその分野ではよく知られた用語であっても，最初にでてくるところで，略さないで書き，必要ならば脚注でその説明をする．原稿中で使用する記号はすべて明りょうに説明し，一貫した記号を使用する．執筆者が手分けして執筆する場合には，特にこの点に注意する．記述の内容の根拠，信頼性がわかるように，実験結果，理論の結論，推測，仮定などの区別をはっきりさせる．執筆者自身の成果や意見と，他人のものとの区別を明確にする．単にその分野の発展を紹介するのではなく，問題の整理の仕方，執筆者の判断などに独創性があってほしい．

1. **見出し**

**２．１　見出し**

大項目を1，中項目を1.1，小項目を1.1.1のように番号づける．原則として常用漢字，新かなづかいを用いる．述語は，学会および旧文部省で制定されたものを用いることが望ましい．外国人の人名，日本語になりきってない述語などは原則として原綴で書く（例えば，学術用語集 物理学篇（大日本図書(株)発行）を参照）．単位記号は，国際単位系（SI）の使用が望ましい．欧語を和文に混用するときは，なるべく英語を用い，英，仏，独，露などの混用を避ける．和文に英単語を混用するとき，英単語の普通名詞が文頭に来た場合には，最初の文字を大文字にし，文中にきた場合には，全部小文字とする．その他の場合も，これに準ずる．量を表す記号はすべてイタリック，単位および元素記号はすべて立体とする．独立した数式は，1行につき本文の2行ないし3行のスペースをとって書く．印刷すべき本文以外の指定や注意書きは，すべて朱書する．特殊な書体の活字をしばしば使用するときには，本文中に適当な記号をつけて，その記号の意味を欄外に一括してもよい．図表は，本文を読まなくても理解できるように，説明文を作成することが望ましい．なお，説明文は原則として和文とする．他の著作物から図などを引用するときは，原則として手を加えることなく転載する．図はPDF，写真は画像ファイルにする．図は図1，図2のように，表は表1，表2のように通し番号をつける．

**２．２　見出し**

本文の筋からは脇道になるが，読者が本文を理解するうえで役に立つ説明，注意，コメントを書く．術語，用語などで専門外の読者になじみがないと思われるものは，ここで簡単に解説する．脚注は本文中に †1，†2，†3 などの記号で示し，その直後に線を引いて説明を書く．解説記事などにおける文献は，読者がさらに深く勉強するために必要かつ十分であること．本文の原稿中で文献を表記するときは，通し番号1,2)（上ツキ）を付け，文献名は原稿の末尾に一括する．執筆者：誌名（略名），巻，ページ，（年）の順に書く．巻数はゴチックにする．雑誌名の省略法については，LTWA (ISO 4) を参照されたい．英文の単行本の題名はイタリックとする．講演論文集には，開催地・開催年，出版社（出版元）・出版地・出版年を必ず記入する．書き方は次の例にならう．総合報告，解説，基礎講座には，できるだけ2，3語程度の用語解説をつける．採り上げる用語は，専門外の読者にとってわかりにくい略号（頭文字），専門用語などとする．解説の文字数は原則100字以内とする．

**文 献**

【ご注意】本誌ではet al.は原則使用しておりません。できるだけお書きこみください。

1. H.Y. Hwang, Y. Iwasa, M. Kawasaki, B. Keimer, N. Nagaosa, and Y. Tokura: Nat. Mater. **11**, 103 (2012).
2. 岩佐義宏, 叶劍挺, 袁洪涛, 笠原裕一, 下谷秀和: 固体物理 **45**, 91 (2010）.
3. 下谷秀和, 岩佐義宏: 有機トランジスタ材料の評価と応用II (シーエムシー出版, 2008）.
4. J.D. Bjorken and S.D. Drell: *Relativistic Quantum Mechanics* (McGraw-Hill, 1998).
5. 田端祐輔, 上野啓司: 第60回応用物理学会春季学術講演会予稿集，27p-G12-46 (2013）.
6. Y. Tamaki, T. Morimoto, K. Koike, and O. Ishitani: Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A. **109**, 15673（2012）.
7. B. Chen, Y. Lu, B. Gao, Y.H. Fu, F.F. Zhang, P. Huang, Y.S. Chen, L.F. Liu, X.Y. Liu, J.F. Kang, Y.Y. Wang, Z. Fang, H.Y. Yu, X. Li, X.P. Wang, N. Singh, G.Q. Lo, and D.L. Kwong: IEDM Tech Dig., p. 283 (2011).
8. <http://subarutelescope.org/Observing/Instruments/AO/index.html>
9. S. Kumagai, T. Makita, S. Watanabe, and J. Takeya: Appl. Phys. Express **15**, 030101 (2022).
10. H. Okimoto, T. Takenobu, K. Yanagi, H. Shimotani, Y. Miyata, H. Kataura, and Y. Iwasa: Jpn. J. Appl. Phys. **49**, 02BD09 (2010).

執筆者のプロフィール

**執筆　太郎（しっぴつ　たろう）**

プロフィール文を140字以内でご入力ください。

プロフィール文の下に顔写真を貼付してください。

|  |
| --- |
|  |

図のキャプション（図はPDFファイルを提出してください）

**図のキャプション**

**図1** （a）図表は，本文を読まなくても理解できるように，説明文を作成することが望ましい．なお，説明文は原則として和文とする．（b）図はPDF，写真は画像ファイルにする．図は図1，図2のように，表は表1，表2のように通し番号をつける．

**図2** 原稿量には，和文要旨（100～300字），本文，図表（約500字換算／1図），図表キャプション，謝辞，文献，著者紹介（140字）を含む．英文要旨は上記原稿量に含まれない．図表は，1つにつき500字程度を使用するため，図表のスペースを配慮し原稿量を算出する必要がある．